

JACET中国・四国支部 Newsletter

第 28 号

目次

1. 巻頭言	支部長 岩中 貴裕	pp. 1-2
2. 2021 年度秋季支部研究大会報告	事務局幹事 寺嶋 健史	p. 3
3. 2021 年度支部第 2 回役員会報告	事務局幹事 寺嶋 健史	p. 4
4. 2021 年度支部研究会 第 12 回 OPP イベント報告	OPP 代表 三熊 祥文	pp. 4-5
5. 2022 年度春季研究大会発表応募要領		p. 5-6
6. 2022 年度『JACET 中国・四国支部研究紀要』投稿募集		p. 6
7. 事務局だより		pp. 6-7
編集後記		p. 8
【重要】 ニュースレター (NL) 配信についてお願い		p. 8

1. 巻頭言

中国・四国支部長 岩中 貴裕

支部会員の皆様、明けましておめでとうございます。冬休み中に少しは体を休めることができましたでしょうか。私は久しぶりにゆっくりと、読書とビデオ鑑賞を楽しむことができました。

私のお正月は年賀状のチェックから始まります。時代の流れで、年賀状ではなく SNS

で年始の挨拶をする人が増えていますが、私は今年も年賀状を続けています。遠方に住んでいる知人や友人の様子を知る機会になっています。今年の年賀状は、昨年と比べると前向きな内容の報告が多かったように思いました。

他大学で働いている知り合いからは「国

際学会にオンライン参加できて有意義だった」、「巣ごもり時間を有効に使って論文を書いた」などのような報告がありました。

私と同じように子育て真っ最中の友人からは「予定は変更になったけれど子どもが修学旅行に行くことができ良かった」、「子どもがスポーツ少年団に入って頑張っている」などのような報告がありました。

コロナ禍で予断を許さない状況が続いていることは変わりません。今年に入ってから感染者数が増加しているのは周知のとおりです。私の住んでいる山口県は、人口当たりの感染者数が全国でトップレベルです。

しかし、不安が先行して冷静な判断ができていなかった 2020 年と比べると、2021 年は多くの方がコロナの中でも、工夫して充実した日々を過ごされたようです。

新型コロナウイルスは 2019 年 12 月初旬に、中国の武漢市で第 1 例目の感染者が報告されました。その後、わずか数カ月で世界的な流行になりました。日本では 2020 年 1 月 15 日に最初の感染者が確認され、あっという間に感染は全国に広がりました。そして 2 月 27 日に、当時の首相による要請で全国一斉休校が始まりました。4 月 7 日には 7 都府県で緊急事態宣言が発令され、その後、対象地域は全国に拡大しました。

2020 年度は様々な行事が中止になりました。私事になりますが、私はスポーツ少年団の指導員をさせていただいています。スポーツ少年団に来ている子どもたちにとって大会への参加はとても貴重な機会です。大会で賞を取ることが目的ではありませんが、多くの子どもたちは大会参加を目指して日々の修練を行います。しかし、2020 年度はすべての大会が中止になりました。中止以外に選択肢はないという状況でした。

誤解のないように言っておきますが、当時の首相や行政による判断を批判しているわけではありません。2020 年はコロナについて十分な情報がない状況でした。一時期は「マスクをしていても感染は避けられない」、「感染者とすれ違うだけで自分も感染してしまう」などのような、不安を煽るだ

けのデマ情報も広まりました。そういう状況の中で当時の首相や行政の出した判断は、その時点でベストの判断だったと私は思っています。

コロナが脅威であることは今も変わりません。しかし時間が経つにつれて、コロナについてかなりのことが分かってきました。マスクの着用、手洗い、うがい、手指消毒を徹底すれば、感染の確率を下げることができます。会食を避ければ、感染の可能性が大きく下がることも分かってきました。

いたずらに不安に苛まれるのではなく、正しく怖がることが大切です。私の知人や友人の多くは、コロナを正しく怖がり適切な判断を行うことができたようです。だから充実した 2021 年を送ることができたのでしよう。

さて、まだ半年以上も先のことになりませんが、8 月 24 日（水）～26（金）に開催される JACET 第 61 回国際大会の件で情報共有です。2021 年度に引き続き 2022 年度も全面オンラインでの開催となります。大会テーマは「デジタルトランスフォーメーションのグローバルな進展における言語文化教育の再設計」となっております。

オンラインの学会は他の先生方と直接交流する機会を持つことができないのが残念ですが、移動のための時間を気にせず自宅や職場から参加することができます。コーヒーを飲みながらリラックスして研究発表を聞くという、対面ではちょっと失礼なこともオンライン学会では可能です。ぜひ参加をご検討ください。

2022 年がどのような年になるかは分かりません。早い段階でコロナ前の生活が戻ってくるのでしょうか。それとも出口の見えないトンネル状態がまだまだ続くのでしょうか。どういう状況であれ、私たちが教育者・研究者として果たすべき役割は変わりません。大学英語教育のプロ集団として今年も互いに切磋琢磨しながら成長しましょう。支部研究大会等で皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

(山口県立大学)

2. 2021 年度秋季支部研究大会報告

事務局幹事 寺嶋 健史

2021 年度 JACET 中国・四国支部研究大会は 10 月 16 日（土）にオンラインで実施しました。約 30 名の参加となりました。

研究発表は以下の 3 件でした。

- (1) “Do Applied Improvisation exercises boost compassion in Japanese university students?” (応用即興は日本大学生の「思いやり」を高めるのか)
Ian Willey 先生 (Kagawa University)
- (2) “Using Peer-Tutors in a TOEIC S & W Preparation Class” (TOEIC S & W 試験対策クラスでのピア・チューターの活用)
Gerardine McCrohan 先生 (Kagawa University)
- (3) “医療福祉教育系学部の多職種連携のための初年次英語教育—オンラインによるグループ活動事例—”
(First-Year English Education for Healthcare and Medical Welfare Students with a Special Focus on Interprofessional Collaboration: A Case of Online Group Activities)
小崎順子先生 (川崎医療福祉大学)

以下、3 件の発表について簡単に説明させていただきます。

香川大学の Ian Willey 先生の発表では、71 名の大学生に対して普段の授業で AI (応用即興) exercises を実践した結果、「思いやり」(compassion: empathy combined with a willingness to act)が高まったことが報告されました。

香川大学の Gerardine McCrohan 先生の発表では、TOEIC S&W のスピーキングテストのコースにおいて、過去に当該テストを受験したことがある学生によるピア・チューターシステムを取り入れた結果、チューター・受講生ともに高い満足度を示し、言語学習や試験対策に有効であることが報告されました。

川崎医療福祉大学の小崎順子先生の発表では、初年次後期の必修英語で医療・福祉テーマについて少人数のグループで調べた内容を発表する活動をオンラインで実施し、多職種連携の面では一定の効果があったと考えられるが、対面でなかったことなどによる課題もあることが報告されました。

大会後半では、『J-POSTL エレメンタリー』の開発の理念とその主な使用方法』という演題で『小学校英語指導者のポートフォリオ』(通称: J-POSTL エレメンタリー)の開発の経緯とその主な使い方について、動画の紹介も交えながら、秀明大学の山口高領先生による講演がありました。

春期研究大会に続き遠隔での開催ということもあり、他支部の会員の参加が多く、オンラインならではのメリットを生かすことができたと思われまます。

次回 2022 年度春季支部研究大会は対面で実施できることを願っております。

3. 2021 年度 JACET 中国・四国支部

第 2 回役員会報告

事務局幹事 寺嶋 健史

2021 年 10 月 16 日(土)に遠隔で開催された第 2 回支部役員会にて、2022 年度の事業計画(案)、予算(案)および人事(案)について話し合いが行われました。暫定的ではありますが、お知らせいたします。

1) 春季研究大会

日程：2022 年 6 月 4 日(土)

場所：安田女子大学

(広島市安佐南区安東 6 丁目 13 番 1 号)

2) 秋季研究大会

日程：2022 年 10 月 22 日(土)

場所：山口県立大学

(山口市桜島 3-2-1)

3) Oral Presentation & Performance (OPP) 研究会

日程：12 月 11 日(日)または 18 日(日)

場所：未定

4) 支部紀要・支部ニューズレター

・『大学英語教育学会中国・四国支部紀要』(第 20 号)

発行：2023 年 3 月 31 日(予定)

・支部ニューズレター

発行：2022 年 7 月 30 日(第 29 号)、

2023 年 1 月 20 日(第 30 号)

(予定)

4. 2021 年度支部研究会 OPP イベント報告

OPP 代表 三熊 祥文

OPP2021 が昨年末の 12 月 12 日(日)に Zoom によるオンラインで開催されました。OPP とは学習者の英語による口頭発表能力と発表に伴う運用能力の向上、およびこれらの能力を高めるための指導方法や指導技能の確立を目的とするパフォーマンスイベントです。そしてその形態はオリジナルスピーチ、寸劇、ドラマ、ミュージカル、アカデミックプレゼンテーション、チャンツパフォーマンスなどに彩られる、詰まるどころ「祭り」です。コロナ禍が始まって以来、祭りに類するイベントは尽く中止に追い込まれてきたのですが、「英語学習活動としてのスピーチ・プレゼンテーション関連活動を意味あるものに仕立てるには、何

らかの『祭り』が必要である」と主張して現在に至る当 SIG としては、このまま指を加えて見ているわけにはいきません。コロナによる開催見合わせのインターバルをできるだけ短くするため、規模を従来通りに維持できなくてもなんとしても実施するという方向性を選択しました。さすがに折からの緊急事態宣言やまん延防止措置の影響を拭い去ることは叶わず、参加校は 3 校にとどまりました。それでも今年度不参加の大学の指導者もこぞって Zoom 開催に参加していただき、研究会のイベントとして成立させることができました。会員の皆様には感謝の意を表したいと思います。

そんなわけで、OPP 2021 は Zoom を用

いて私の指導する広島工業大学に加え、県立広島大学と山口学芸大学の参加を得て、なんとか開催することができました。県立広島大学は例年どおりの高品質のドラマパフォーマンスでした。“Alice’s Adventures in Wonderland”, “Peter Pan”, “Winnie-the-Pooh and a Day for Eeyore”, “Harry Potter and the Chamber of Secrets”の4作品を演じた学生たちのパフォーマンスは素敵なセッティングとともにビデオ化され、配信・共有されました。山口学芸大学からは“Frozen, Aladdin, and Beauty and the Beast 2021”と題するディズニーベースのスキットが、こちらも録画作品として披露されました。こちらも学生さんの熱演が光る、見応えいっぱいの作品でした。わが広島工業大学 ESS は、HIT-Chants 2021 (広工大 ESS のテーマ)、各メンバーの所属学科紹介のチャンツ、“Freeze-Dry Your Knowledge!” (オリジナルスピーチ) を、こちらはライブでお届けしました。コロナ禍の皮肉な副産物とも言えるオンライン配信機材とスキルの充実が今回の異種オンラ

イン共演を可能にしました。直接関係はありませんが、広島工業大学ではスピーチコンテストも復活させました。本来学内大会であるこのコンテストに他大学からの招待選手の参加もありました。ところが県境を跨ぐことを大学が許可しなかったため招待選手の発表はオンラインとなりました。それでも、自宅からのスピーチ発表が審査員にとってライブ発表と同じように鑑賞できる映像と音声を届けることができたのです。そこで培ったスキルが OPP のハイブリッド配信で大きく役立ちました。何が功を奏すかわからないものです。

「祭り」を教育の根源に配置する私たちの取り組みは、やはり本質的なところでは対面を求めるところが大きいと思い知らされております。来年度は対面が復活できるよう、手筈を整えておきたいと意気込んでいるところです。

以上、ご報告いたします。来年も皆様からのご関心、ご支援を賜りますよう、祈念しております。

5. 2022 年度春季研究大会発表募集要領

2022 年 6 月 4 日 (土) に 2022 年度春季研究大会が開催される予定です。下記のとおり、研究発表の募集をいたします。奮ってご応募ください。

支部春季研究大会

日時：2022 年 6 月 4 日 (土)

場所：安田女子大学

(広島市安佐南区安東 6 丁目 13 番 1 号)

A) 応募情報 (英語での併記もお願い致します)

a. 発表題目 (Title) : 日本語と英語

b. 種別 (Style) : 自由研究発表、実践報告、事例研究など

c. 氏名 (Name) :

d. 研究領域 (Research Area) :

e. 概要 (Abstract) : 目的、背景、仮説、方法、結論、引用文献など日本語の場合は 600 字以内、英語の場合は 250 words 以内とする。

f. 所属 (Affiliation) :

g. 使用機器 (Equipment needed) :

h. 連絡先 (Contact Address) : メールアドレスなど

B) 申込応募期間

■2022年5月19日(木)
午後11時59分まで

■申込先

下記支部HPの申込フォームをご利用ください(発表、および懇親会への参加申込ができます)。

<https://ws.formzu.net/dist/S78585634/>

C) プログラムおよび発表スケジュール詳細は支部会員ML、および支部HPでお知らせします。(支部会員MLへのアドレス追加をご希望の方は事務局までご連絡ください)。

■問い合わせ先

事務局幹事 寺嶋健史(松山大学)

tterashi@g.matsuyama-u.ac.jp

6. 『JACET中国・四国支部研究紀要』第20号 投稿募集

質的研究や量的研究など様々な観点に基づく論文、リサーチ・ノート、実践・研究報告、およびブックレビューの4つの分野の研究成果を発表する場として、年1回3月に支部紀要を刊行しています。

応募資格は、所定の学会費を完納した支部会員とします。ただし委嘱原稿については、この限りではありません。

投稿論文は、原則として過去2年以内に開催された全国大会および支部大会で発表を行った研究にもとづくものが望ましいです。

審査は、委嘱原稿を除き、紀要編集委員会が指名する審査員が担当し、査読の結果を踏まえて編集委員会が採用の可否を決定いたします。

JACET中国・四国HPにある投稿規程をご参照の上、奮ってご応募ください。

なお、発行までの日程は原則として下記

のとおりです。

■投稿原稿締め切り：10月末

■審査結果通知：12月末

■修正原稿締め切り：1月末

■刊行：3月末

なお、投稿資格は、所定の学会費を完納した支部会員に限ります。複数名による投稿の場合には、必ず本支部会員1名を含むこととし、その他の投稿者も論文投稿時にはJACET会員でなければなりません。

投稿先：支部HPフォームズから(詳細はニューズレター次号でお知らせします。)

お問い合わせ：紀要編集委員会委員長
中山晃(愛媛大学)

E-mail:

nakayama.akira.mm@ehime-u.ac.jp

7. ～事務局だより～

★新入会員紹介★

2021年7月から現在までの新入会員2名をご紹介します。

デスマレス・エリック (岡山県立大学)

藤瀬 公利香 (広島女学院大学非常勤)
(敬称略)

皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

2022 年度の支部人事および本部運営委員をお知らせいたします。支部活動発展のために力を尽くしますので、よろしく願いいたします。

★支部人事★

【支部役員】

支部長 岩中貴裕 (山口県立大学)
副支部長 高橋俊章 (山口大学)

支部幹事 (*は事務局幹事)
寺嶋健史* (松山大学)
山中英理子 (広島国際大学)

支部会計担当者
田辺尚子 (福山平成大学)

支部研究企画委員 (26 名)

五百藏高浩 (高知県立大学)
池野修 (愛媛大学)
岩中貴裕 (山口県立大学)
ウィリー・イアン (香川大学)
上西幸治 (福山大学)
榎田一路 (広島大学)
折本素 (愛媛大学)
小崎順子 (川崎医療福祉大学)
小山尚史 (岡山大学)
関谷弘毅 (東洋英和女学院大学)
高垣俊之 (尾道市立大学)
高橋俊章 (山口大学)
田辺尚子 (福山平成大学)
田淵博文 (就実大学)
寺嶋健史 (松山大学)
長崎睦子 (愛媛大学)
中住幸治 (香川大学)
中山晃 (愛媛大学)
二五義博 (海上保安大学校)
平本哲嗣 (安田女子大学)
松岡博信 (安田女子大学)

三熊祥文 (広島工業大学)
三宅美鈴 (広島国際大学)
山川健一 (安田女子大学)
山中英理子 (広島国際大学)
ローレンス・ダンテ (就実大学)

【本部委員】

理事 岩中貴裕 (山口県立大学)
総務委員会 (支部事務局幹事)
寺嶋健史 (松山大学)
財務委員会 (支部会計担当者)
田辺尚子 (福山平成大学)
国際大会組織委員会本部
山川健一 (安田女子大学)
『JACET 通信』委員会
松岡博信 (安田女子大学)
学術出版委員会紀要担当
平本哲嗣 (安田女子大学)
学術出版委員会 Selected Papers 担当
平本哲嗣 (安田女子大学)
セミナー事業委員会
田淵博文 (就実大学)
研究促進委員会
長崎睦子 (愛媛大学)
学術交流委員会
ウィリー・イアン (香川大学)
大学英語教育学会賞運営委員会
池野修 (愛媛大学)
学術出版委員会 Selected Paper 担当
中山晃 (愛媛大学)
平本哲嗣 (安田女子大学)
寺嶋健史 (松山大学)

【編集後記】

やっと終息に向かうのではないかと期待されたコロナですが、新種株が現れ再び広がりを見せています。みなさまにおかれましては、感染症予防、健康管理等、くれぐれもご自愛ください。今年の干支である勇

ましい虎がコロナをやっつけてくれることを期待します。そして、みなさまにとって令和4年が良い年になりますように。

【重要】JACET（大学英語教育学会）

中国・四国支部ニューズレターの配信について

支部長 岩中貴裕（山口県立大学）

中国・四国支部では、支部会員の皆様により迅速な情報提供を図るべく、2014年度よりメールにてニューズレターを配信しています。お知り合いの会員の中で、まだ登録をされていない方がおられましたら、下記要領にて登録をされますよう、お知らせください。ご協力の程、どうぞよろしく願いいたします。

1. 支部 HP

(<http://jacet.edu.yamaguchi-u.ac.jp>) にアクセスする。

2. 入力フォームのサイトのページ

(<http://ws.formzu.net/fgen/S61768122/>) に入る。

3. ウェブの入力フォームに以下の【入力情報】を入力する。

【入力情報】

・支部のメーリングリストに登録を希望しますか？

- すでに登録している
- 希望する
- 希望しない

(※すでに事務局からのメールが届いている方は登録済みです。)

・登録を希望するメールアドレス

※ニューズレターはメール送信とともに、支部ホームページでも公開します。

なお、上記の作業についてご不明な点がありましたら、事務局幹事の寺嶋までお問い合わせください。

アドレス：tterashi@g.matsuyama-u.ac.jp

メールアドレスを変更された方は、事務局までお知らせください。

JACET 中国・四国 Newsletter 第28号

2022年1月20日 発行

発行人：JACET 中国・四国支部 支部代表 岩中 貴裕

編集：JACET 中国・四国支部 事務局幹事 寺嶋 健史

発行所：〒790-8578 愛媛県松山市文京町4番2号 松山大学 人文学部

連絡先：E-mail: tterashi@g.matsuyama-u.ac.jp